

2024年の九頭竜湖およびその周辺における特定外来生物 ウチダザリガニの分布調査結果

福井県自然保護センター^{*1}・保科英人²

要旨：福井県の九頭竜湖およびその周辺において特定外来生物ウチダザリガニの分布調査を実施した。2024年秋季に九頭竜湖内5地点および湖外3地点にカゴ罟を仕掛けたところ、ウチダザリガニは九頭竜湖内4地点で捕獲され、九頭竜湖外では捕獲されなかった。

キーワード：特定外来生物、ウチダザリガニ、分布調査

Fukui Nature Conservation Center^{*1}, Hideto HOSHINA². 2025. Distribution of designated invasive alien species *Pacifastacus leniusculus* in and around Lake Kuzuryu in 2024. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 28:111-115.

Designated invasive alien species *Pacifastacus leniusculus* (signal crayfish) exist in Lake Kuzuryu, Fukui. In fall 2024, we set cage traps at five points in the lake and three points around the lake. We caught signal crayfish at four points in the lake, and no crayfish outside the lake.

Key words: designated invasive alien species, distribution, *Pacifastacus leniusculus*, signal crayfish

はじめに

福井県大野市にある九頭竜湖には外来生物法で指定されている特定外来生物ウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus* が生息している(保科 2011, 2012, 2014, 福井県自然保護センター・保科 2021, 2022, 2023, 2024)。ウチダザリガニは沈水植物の切断や底棲動物の捕食、底泥攪拌などを通じて食物網や生態系機能を改変させることが知られていて (Usio et al. 2006, 2009)、世界各地の侵入先の湖沼や河川において多大な被害をもたらしている。ウチダザリガニは一度定着すると根絶は極めて困難になる(一條ほか 2020)。九頭竜湖は九頭竜ダムの建設でできた人工湖であるが、その周囲一帯は優れた自然がある(福井県 1996)。福井県の優れた自然を守るためにも、九頭竜湖およびその周辺のウチダザリガニの分布状況を定期的に監視する必要がある。

福井県自然保護センターでは 2020 年から秋季に九頭竜湖およびその周辺においてウチダザリガニの分布調査を実施している。本報告では 2024 年の調査結果を報告する。

調査地と調査方法

調査地

主な調査地である九頭竜湖は福井県大野市の東部に位置する、1968年に竣工された九頭竜ダムによりできた人造湖である(図1)。面積 8.9 km²、最大水深 100 m、最低水位標高 529 m である。九頭竜湖のウチダザリガニは 2011 年に初確認されており(保科 2011)、以降、九頭竜湖およびその周辺において分布調査を実施しているが、これまで湖外で確認していない(福井県自然保護センター・保科 2024)。

九頭竜ダムの貯水位は調査を実施した 2024 年 10 月 18 日は 545.72m、10 月 31 日は 548.79m であった。

分布調査

湖内の分布調査を野尻橋、大谷橋、箱ヶ瀬橋、面谷橋、伊勢川橋の 5 地点で、湖外の分布調査を九頭竜湖上流に位置する荷暮、九頭竜川下流に位置する谷戸橋、別水系であるが距離の近い笹生川ダムの 3 地点で実施した(図2)。各調査地点におけるわなの設置日一回収日、設置数を表 1 に示す。円筒形のカゴ罟(図3)の中に誘引餌として魚のアラを入れ、調査地点付近の固定物とビニールロープで連結した上で、カゴ罟を湖底に設置した。設置 1 日後または 2 日後にカゴ罟を引き上げ、カゴ罟の中の捕獲物を確認し

* 執筆者：服部耕平 Written by Kohei Hattori. E-mail: sizen-ci@pref.fukui.lg.jp (福井県自然保護センター窓口)

1 〒912-0131 福井県大野市南六呂師 169-11-2
Minamirokuroshi 169-11-2, Ono, Fukui 912-0131, Japan.

2 〒910-8507 福井大学教育学部、福井県福井市文京 3 丁目 9-1
Faculty of Education, University of Fukui, Bunkyo 3-9-1, Fukui, Fukui 910-8507, Japan.

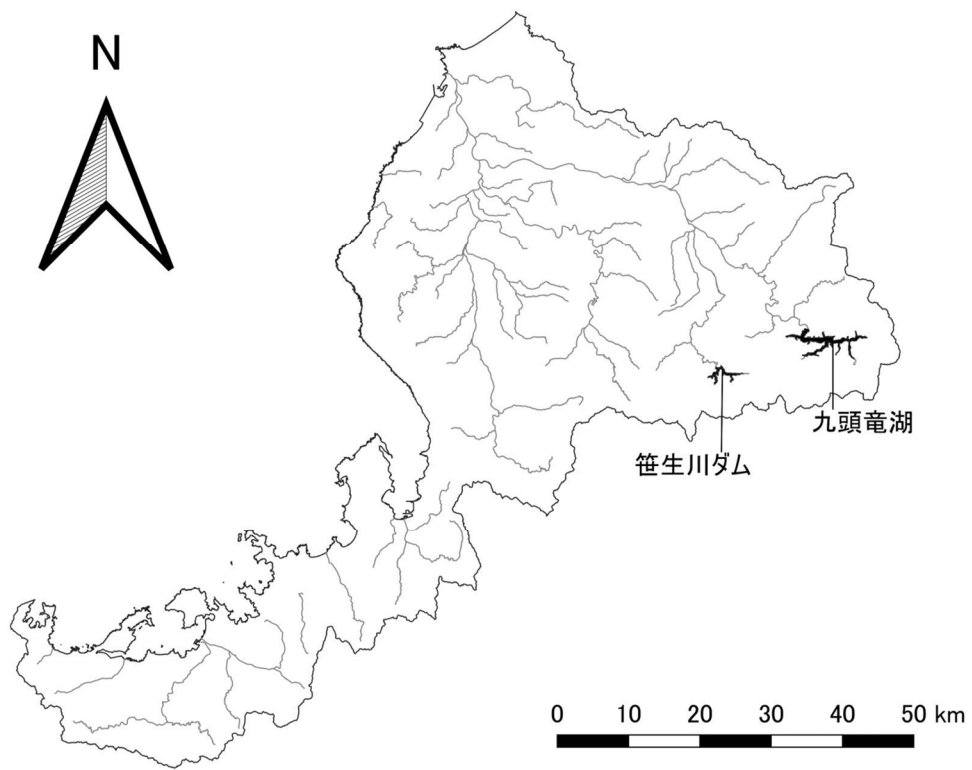


図1 調査地の位置.

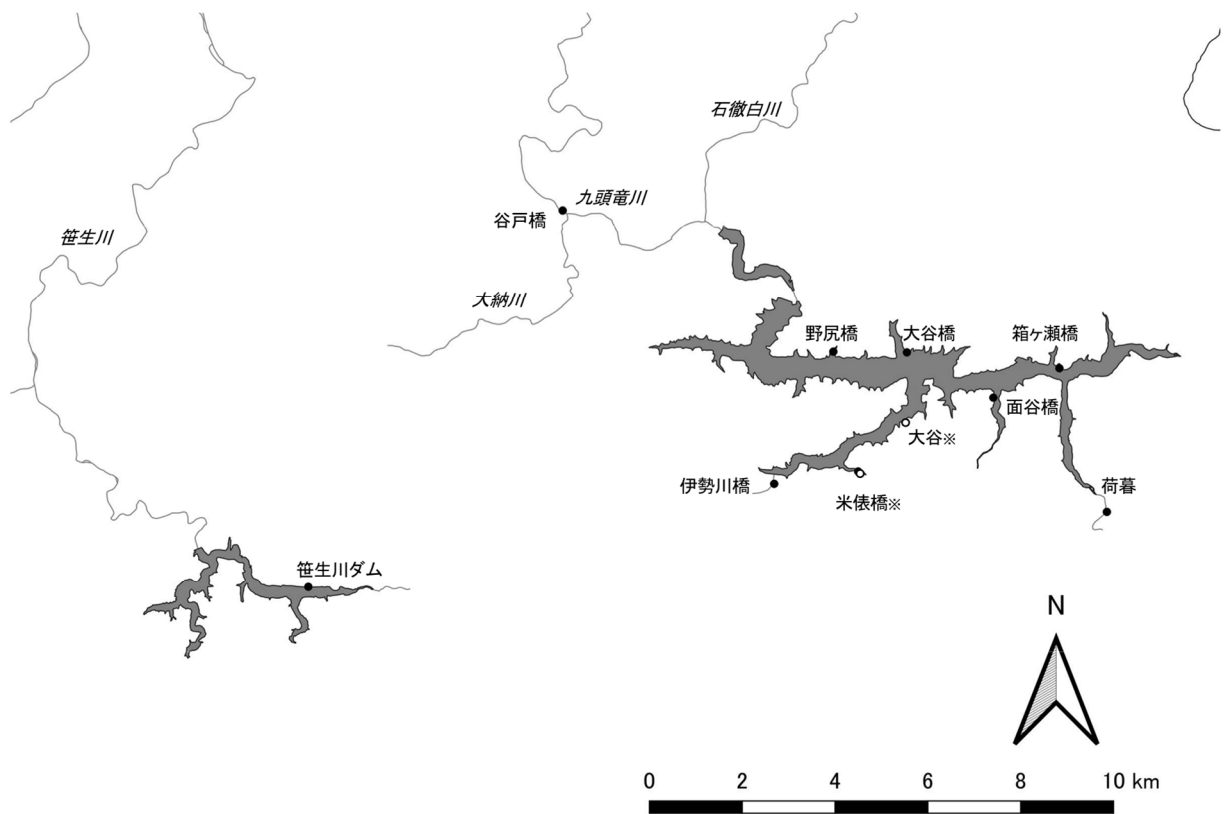


図2 調査地点の位置. ※2024年は大谷, 米俵橋では調査を実施しなかった.



図3 円筒形のカゴ罟 (2020年10月23日撮影)。

た。捕獲したウチダザリガニは雌雄を区別し、頭胸甲長を計測した後、すみやかに殺処分した。捕獲したウチダザリガニ以外の生物は速やかに再放流した。

作業実施にあたり、国土交通省近畿地方整備局九頭竜川ダム統合管理事務所九頭竜ダム管理支所へ作業を届出た。また福井県奥越土木事務所へ道路通行占有を届出、笹生川・浄土寺川ダム統合管理事務所へ連絡した。さらに、福井県漁業調整規則に基づき、奥越漁業協同組合および大野漁業協同組合から特別採捕(カゴ罟による捕獲)の同意を得て、福井県(水産課)から許可を受けた。

結果

本調査においてウチダザリガニは計66個体捕獲された。湖内では、大谷橋、箱ヶ瀬橋、面谷橋、伊勢川橋の4地点でウチダザリガニが捕獲され、野尻橋

では捕獲されなかった(表1)。伊勢川橋でウチダザリガニが捕獲されたのは、2020年からの本調査で今回が初めてである。捕獲効率は箱ヶ瀬橋が7.25個体/(個・日)となっており、他地点に比べて高い値となっていた。

九頭竜湖上流支流の荷暮、下流の谷戸橋、別水系だが付近にある笹生川ダムではウチダザリガニは捕獲されなかった。

本調査で捕獲した個体の頭胸甲長はオスで中央値52.5 mm(最小値35 mm~最大値70 mm)、メスで中央値50 mm(最小値25 mm~最大値65 mm)であった(表2)。

考察

野尻橋では2021年から2023年にかけてウチダザリガニが捕獲されていたが、本調査では捕獲されなかった(表1)。これは、調査時に貯水位が低く、カゴ罟の設置場所が水深の浅い狭い範囲に限定されたことに起因すると推測される。

箱ヶ瀬橋ではウチダザリガニの捕獲効率が例年通り高かった。また、2021年は野尻橋、2022年は米俵橋、2024年は伊勢川橋において、これまでウチダザリガニが確認できなかった地点で新規にウチダザリガニが捕獲された(表3)。これらのことから、九頭竜湖内のウチダザリガニの生息密度が高いのは湖の東側であるが、湖の西側に向かって年々分布を拡げた結果、現在ではほぼ全域に分布が広がっているものと考えられる。

表1 2024年の各調査地点におけるウチダザリガニの捕獲数

調査地点	緯度	経度	わな 設置日 - 回収日	わな 稼働日数 (日)	わな 設置数 (個)	捕獲数(個体)			捕獲効率 (個体/ (個・日))
						オス	メス	計	
野尻橋	35.8791	136.6989	10/16 - 10/18	2	2	0	0	0	0.00
大谷橋	35.8787	136.7165	10/16 - 10/18	2	2	10	8	18	4.50
箱ヶ瀬橋	35.8751	136.7528	10/16 - 10/18	2	2	12	17	29	7.25
面谷橋	35.8696	136.7369	10/16 - 10/18	2	2	1	7	8	2.00
			10/30 - 10/31	1	3	5	4	9	3.00
伊勢川橋	35.8537	136.6842	10/16 - 10/18	2	2	0	2	2	0.50
谷戸橋	35.9075	136.6349	10/30 - 10/31	1	2	0	0	0	0.00
荷暮	35.8471	136.7635	10/30 - 10/31	1	2	0	0	0	0.00
笹生川ダム	35.8351	136.5727	10/16 - 10/18	2	2	0	0	0	0.00

表2 2024年に九頭竜湖で捕獲したウチダザリガニの頭胸甲長別分布.

性別	捕獲地点	頭胸甲長 (mm)										合計
		25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	
オス	野尻橋											0
	大谷橋			1	1	1	2	2	2	1		10
	箱ヶ瀬橋				2	3	2	2	2	1		12
	面谷橋			1			1	1			3	6
	伊勢川橋											0
	小計			2	3	4	5	5	4	2	3	28
メス	野尻橋											0
	大谷橋	1		1		3	1	2				8
	箱ヶ瀬橋		1		5	3	5	3				17
	面谷橋			1	2		6	1		1		11
	伊勢川橋							2				2
	小計	1	1	2	7	6	12	8		1		38
合計	1	1	4	10	10	17	13	4	3	3	66	

表3 2020年～2024年秋季の九頭竜湖におけるウチダザリガニの捕獲効率の推移.

調査地点	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
野尻橋	0.00	0.25	1.00	0.75	0
大谷橋	8.00	0.25	1.50	1.75	4.5
箱ヶ瀬橋	37.50	12.25	0.00 - 4.75	5.50	7.25
面谷橋	4.50 - 8.67	1.00 - 14.33	0.67 - 1.75	10.00	2.00-3.00
大谷	1.50	未実施	未実施	未実施	未実施
米俵橋	0.00	未実施	1.25	1.25	未実施
伊勢川橋	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50

九頭竜湖の流入部や下流部、近接した水系に位置する3地点においてウチダザリガニは捕獲されなかった。これまで九頭竜湖の外でウチダザリガニの捕獲は報告されていないことから、少なくとも2024年時点では、本種は九頭竜湖内に留まっており、周辺の河川へは広がっていないことが示唆された。一方で、ウチダザリガニは沈水植物の切断や底棲動物の捕食、底泥攪拌などを通じて食物網や生態系機能を改変させることが知られており (Usio et al. 2006, 2009),

九頭竜湖外に逸出した場合には福井県の自然環境に及ぼす生態系被害は大きいと考えられる。一度定着したウチダザリガニを根絶させるのは困難であるため (一條ほか 2020), 早期発見, 早期駆除を実施できるように、今後も定期的な分布調査を実施する必要がある。

引用文献

- 福井県（県民生活部自然保護課）. 1996. ふるさと福井の自然 100 選.
- 福井県自然保護センター・保科英人. 2021. 2020年の九頭竜湖およびその周辺における特定外来生物ウチダザリガニの分布調査結果. *Ciconia*（福井県自然保護センター研究報告）24:39-42.
- 福井県自然保護センター・保科英人. 2022. 2021年の九頭竜湖およびその周辺における特定外来生物ウチダザリガニの分布調査結果. *Ciconia*（福井県自然保護センター研究報告）25:81-84.
- 福井県自然保護センター・保科英人. 2023. 2022年の九頭竜湖およびその周辺における特定外来生物ウチダザリガニの分布調査結果. *Ciconia*（福井県自然保護センター研究報告）26:97-101.
- 福井県自然保護センター・保科英人. 2024. 2023年の九頭竜湖およびその周辺における特定外来生物ウチダザリガニの分布調査結果. *Ciconia*（福井県自然保護センター研究報告）27:81-85.
- 保科英人. 2011. ウチダザリガニの福井県からの記録. 福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」18:19-24.
- 保科英人. 2012. 福井県九頭竜湖のウチダザリガニ. 福井大学地域環境研究センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」19:13-20.
- 保科英人. 2014. 福井県九頭竜湖のウチダザリガニ (II). 福井大学地域環境センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」21:1-5.
- 一條信明・笹木篤志・小西雄大・阿部嘉寿也・兼平丈之・浦田誠也・松木護. 2019. 小規模な池の外来種ウチダザリガニ根絶事業におけるサイズ別 Delury 法による捕獲効果の検証. 保全生態学研究 24:1-8.
- Usio, N., Nakajima, H., Kamiyama, R., Hiruta, S., Takamura N. 2006. Predicting the distribution of invasive crayfish (*Pacifastacus leniusculus*) in a Kushiro Moor marsh using classification and regression trees. *Ecological Research* 21:271-277.
- Usio N, Kamiyama R., Saji A., Takamura N. 2009. Size-dependent impacts of invasive alien crayfish on a littoral marsh community. *Biological Conservation* 142:1480-1490.